

「分析アジア哲学交流プログラム報告書」

京都大学文学研究科博士課程1年 五十嵐 涼介

1. プログラム内容

今回の派遣プログラムでは台北市にある4大学へ訪問した。まず、国立台湾大学では、Christian Wenzel教授の講義に参加した。次に、国立陽明大学では、鄭凱元教授の元で行われる哲学科の院生向けセミナーに参加した。また、セミナー後に研究発表を行なう場を作っていただいた。続いては東呉大学にて、米建國教授が主催されるWorkshopに参加し、研究発表を行なった。最後に、国立政治大学では、耿晴教授に受け入れていただき、国際会議“Buddhist Philosophy of Consciousness: Tradition and Dialogue”に参加した。

2. 学習成果

国立台湾大学での講義は、私自身の専門分野に関する内容であったこともあり、大変参考になった。国立陽明大学のセミナーでは、大学院生の講義に参加できたことで、現地の実際の雰囲気を感じることができた。また、国立陽明大学・東呉大学での研究発表においては、英語での発表経験を積むと共に、数多くの質問・コメントをいただき、大変有意義な時間を過ごすことができた。国立政治大学での会議では、仏教と心の哲学に関する世界的な研究者の発表を聞くことができ、新たな知見を得ることができた。

3. 海外での経験

台湾への派遣事業に参加したのは今回で三回目であるが、これまで通り現地の教員・学生には非常に暖かく迎えていただいた。特に私自身の語学力が向上していたこともあり、これまで以上に多くのコミュニケーションがとれたように思われる。台北市での生活は、言葉が通じない局面が多少ありつつも、英語および日本語を用いることで大きな不自由はなかった。今回は台北市の4つの大学に訪問したが、交通網の利便性も高いためスムーズに移動することができた。ただし、タクシー運転手はほぼ英語が通じないため、事前に住所を書きとめておくなど、工夫をする必要があった。

4. 進路への影響について

今回の派遣では、特に現地の多くの学生と交流をすることができた。留学を検討していることなど、境遇が似ている学生も多く、日本を含めた学習環境・就職状況について情報交換をすることができた。また、自身と近い研究分野の学生とも知りあうことができた。これらの繋がりは今後とも様々な場合で有益なものとなると考えられる。